

検討の観点

● 内容の特色 ●

1. 教科の目標、および学習指導要領などへの対応

(1) 教科の目標達成が図られているか。

理解力・表現力・伝え合う力・豊かな言語感覚の育成	○国語による理解力や表現力、伝え合う力、豊かな言語感覚を育てるために、それぞれを有機的に結びつけながら、教材化している。 ○「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」領域において、「習得」と「活用」を意識した系統的な学習を意図して単元の目標やねらいを明確にし、児童が自ら学び、自ら考える力を身につけられるように配慮している。
--------------------------	---

(2) 教育基本法や学校教育法の理念への対応はどのようになされているか。

①共に生きる視点をもち、自ら学び・自ら生きる力を育成	○現代の諸課題に言葉の教育という側面からこたえ、新たな時代を切りひらいていくことのできる児童を育てることを主眼としている。国語科として、児童が言語活動とおして、人（他者）と交わりながら共に生きていく視点をもち、自ら学び、自ら生きる力を培えることを目指している。
②「伝え合う力」の育成と学び合い	○学習過程において、互いの立場を尊重しながら、課題の解決に向けて意見や感想、助言を述べ合う「学び合い」の場を設け、「伝え合う力」の育成を図っている。
③学ぶ意欲と豊かな心を育てる	○一人一人の児童が課題をもち、自ら学ぶ意欲をもつように教材を作成している。 ○社会の中で、「共に生きていく」視点をもち、お互いを尊重し合える心をもつこと、自らの未来に展望を持ち希望をもつこと、これらを国語学習の中で育めるように教材化を図っている。 ○卒業を控えた6年生には、先達の思いや言葉にふれる教材を設けるとともに、郷土を愛し、我が国の伝統的な言語文化に親しむ教材を位置づけている。 ○文学作品とおして、想像力や豊かな心を育む教材を選定している。また、読書をもとに交流する読書関連単元を全学年設け、さまざまなジャンルや多様なテーマにふれ、交流することで、お互いの気持ちや考えを深め合うように意図している。
④自己を表現する文章を重視	○自己を見つめて表現することで、自分自身を理解すると同時に、お互いを理解し合うための場として、自己表現を主眼とする書くことの教材を全学年設けている。コミュニケーションのための大切な機会として位置づけている。

(3) 学習指導要領への対応はどのようになされているか。

国語を適切に表現し、伝え合う力を高めるためにどのような対応がなされているか。	○基礎・基本を重点化し、理解力と表現力を高めるために学習過程の中に見通しと振り返りの過程を位置づけている。さらに各領域で学び合いの場を設定し、協働学習の中で課題解決を図るようにしている。 ○単元学習において、具体的な言語活動を児童がわかるように目標として設定し、学習の展開や段階を明示して見通しをもちやすくしたり、重点化を図って取り立てたりするなど、学習を可視化している。 ○単元配列では、上巻の導入部から「国語の学習 これまでこれから」の振り返りまで、反復、繰り返しを図りながらステップアップするように一年間の学習を構成している。 ●上巻の各領域の最初の教材を「国語学習への導入教材」と位置づけ、音読教材による教室開き、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の日常化（モジュール）教材を設け、帯単元として、年間の学習に位置づけられるようにしている。
①学習過程の明確化	○課題をふまえ、次のような観点から言語活動の開発を行った。 ●課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけることのできる言語活動の開発。 ●言語や言語活動に関する意識を育て、基礎的・基本的能力を習得する言語活動の開発。 ●児童が自ら課題をとらえ、追究し、活用することのできる言語活動の開発。 ●豊かな言語生活への展開を志向する、学習の生活化・総合化の工夫。 ○他教科での学習内容も視野に入れながら、学校内、地域など、社会に視野を広げコミュニケーションを図る活動も、適切に配置している。
●反復・繰り返しを図る	
●日常化	
②言語活動の充実	○「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」が、バランスよく学期の中に位置づけられるように配慮している。また、単元の学習目標・学習の目あてや、学習の手だてを明示し、学習の系統化や重点化を図っている。
●教材開発の視点	
●異学年交流、地域交流	
③学習の系統性の重視	○「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の単元では、「学習の進め方」を教材の冒頭に明示し、「読むこと」の単元では、てびきにおいて単元の目標である言語活動に向けた学習のステップを提示し、展開している。 ●各教材での学習のポイント（指導事項）や、そこで扱う学習用語の解説などを、「ここが大事」でまとめて解説し、内容理解と定着を促すようにしている。 ●各領域・事項の中での系統化とともに、領域・事項間の関連、連携も視野に入れ内容の配置を図ることで、「習得」と「活用」を螺旋的に繰り返すように配慮している。 ●巻末「この本で学ぶこと」では、各教材の指導事項や「ここが大事」で扱う学習事項、学習用語および小学校の学習に必要と思われる用語をまとめた索引を設け、その巻で学ぶ内容を、いつでも確認したり、振り返ったり、学習者の状況により、学びの見通しをたてたりする際に活用できるように意図している。
●「学習の進め方」の明示	
●学習の重点をまとめた「ここが大事」	
●「習得」と「活用」	
●「この本で学ぶこと」	
●学習意欲を高める工夫	○低学年では、楽しみながら学習することを重視し、多様な工夫を施している。 ●入門期第一教材「なかよし」(p1) ……穴あきの紙面 ●入門期「かるたを つくって あそぼう」(p36) ……付録の「かるた」用紙を使って遊ぶ活動を設定している。 ●入門期「おはなしのくに」(p71) ……両開きの紙面 ●「いなばのしろうさぎ」(2下) ……わにのポップアップとうさぎのペーパーサート
④伝統的な言語文化に親しむための工夫	○各学年に古典作品にふれる系統の二つの単元と、季節の風物や言葉遊びなどの言語文化に目を向ける二つの小教材を系統的に配置し、これまでより拡充を図っている。
⑤読書に親しみ、読書生活への基盤を築く	○各教材、各学習のさまざまな段階から、読書へと発展させることができるようにしている。 ○学校図書館を計画的に利用し、その機能の活用を図るための情報活用教材を、発達段階を考え1～4年生に設けている。また、読書意欲を高め、日常生活において読書活動を活発に行うことができるように、図書紹介を中心とした交流活動を行う読書交流教材を全学年にわたって設けている。
●読書関連単元	
●「読むこと」から読書活動へ	○「読むこと」の教材のてびきには、その教材の作品と同一の作者・筆者による別作品や、内容や話題やテーマに関連する作品を表紙の写真とともに紹介している。
●付録の図書紹介の充実	○各巻の付録（折込）にも図書紹介のページを設け、多様なテーマの図書を紹介した。（合計各学年約80冊）
⑥文字指導の内容の改善	○入門期（1上）においては、平仮名の初出において、言葉のまとまりごとに書き文字で提示し、語彙学習としても位置づけるようにしている。 ○低学年での平仮名・片仮名の習熟のため、まちがえやすい平仮名・片仮名を取り立て指導している。 ○巻末の漢字一覧では、当該学年・前学年の漢字とも、書き文字で提示し、前学年の漢字ともども、筆順もあわせて示している。

(4) 構成・配列はどのようになされているか。

①単元や教材の構成	○指導内容を螺旋的・反復的に繰り返して学力向上を図った指導ができるように、学年間と学年を通しての系統的な単元構成を意図している。
②単元や教材の配列	○学年間の系統化を図った単元構成 ……1下以降、単元構成を全学年系統化して学年間の関連を図っている。 ○複数の領域を関連させて効果的に学習を図る「関連単元」と、一つの領域に集中して学習する「基本単元」をバランスよく組み合わせている。 ○年間の学習では、一つの領域を重点的に学習する「基本単元」を基本とするが、「話すこと・聞くこと」「書くこと」は、領域を関連させて効果的に展開する「関連単元」を設定している。

(5) 全体の分量・配列

①児童の発達段階と分量の考慮	○単元数は、系統の展開をおさえながら、学年の発達段階や時数に応じた構成にしている。 ●1・2年 ●3・4年 ●5・6年 ●身近な話題や、動物の登場するお話など、親しみやすい題材を取り上げ、経験に照らして活動できるように配慮している。 ●活動や調べ学習の広がりにあわせて、できるだけ多様な話題・題材を取り上げ、知的好奇心の高まりに配慮している。 ●さまざまな立場によるもの見方や考え方にふれ、自分のもの見方や考え方を広げたり深めたりすることができるよう、多様な考え方や立場を取り上げるように意図している。
②教材数など	○各学年の発達段階と、教材間の連携をふまえて無理のない教材配列を設定している。 ○1・2年は、一つの領域からなる単元を中心に8～10単元を配し、ほかに小教材6本で構成している。3・4年は、関連単元も含め8～9単元を配し、ほかに小教材7本、5・6年は、送り出しの総合単元も含め7～8単元を配し、ほかに小教材8教材を位置づけている。そのほか、巻末に発展教材として、高学年に3教材収録している。 ○伝統的な言語文化は、1年下巻は1単元、2年生以上は、各学年2単元の読み聞かせ・読み物教材と、音読・朗読のための小教材、1年生は1教材、2年生以上で2教材ずつ配置している。 ○国語の特質については、言葉について考える「言葉単元」を各学年1単元ずつ位置づけている。ほかに、言語教材は、1上は14教材、1下は2教材、2年は5教材、3～6年は各4教材とし、漢字教材は1年4教材、2年以上各6教材ずつ配置している。 ○2学期制・3学期制のどちらにも対応できるように、単元・教材の配列や領域の配分を考慮している。
③2学期制・3学期制に対応	

(6) 教材選定

①教材選定の観点	○社会の中の人間を見据え、社会性を育てるための教材 *「話すこと・聞くこと」の各単元：話し合い・討論の系統（1下～6上） *「書くこと」の各単元：記録文・報告文・意見文の系統（1下～6下） *説明的文章の各単元：「はたらくじどう車」（1下）、「すみれとあり」（2上）、「くらしと絵文字」（3下）、「便利」ということ」（4下）、「言葉と事実」（5上）、「世界遺産 白神山地からの提言」（5下）、「伊能忠敬」（6下） ○「りすのわすれもの」（1下）、「さけが大きくなるまで」（2下）、「わすれられないおくりもの」（3上）、「ウミガメの命をつなぐ」（4下）、「君へ」（6下） ○「見学したことを報告しよう」（4上）、「ウミガメの命をつなぐ」（4下）、「世界遺産 白神山地からの提言」（5下）、「森林のはたらきと健康」（6上） ○「一つの花」（4上）、「川とノリオ」（6上）、「子どもたちを救いたい——オードリー＝ヘプバーンの願い」（6下）、「世界へはばたけ」（6下折込） ○「うみへのながいたび」（1下）、「えいっ!」「わにのおじいさんのたからもの」（2上）、「かさこじぞう」（2下）、「おにたのぼうし」（3下）、「白いぼうし」（4上）、「大造じいさいとがん」（5上）、「きつねの窓」（6下） ○「けんかした山」（1上）、「アレクサンダとぜんまいねずみ」（2下）、「おにたのぼうし」（3下）、「ごんぎつね」（4下）、「いつか、大切なところ」（5上）、「きつねの窓」「はくの世界、君の世界」「君へ」「二十一世紀に生きる君たちへ」（6下） ○「くらしと絵文字」（3下）、「便利」ということ」（4下）、「クラスで活動報告をしよう」（5下）、「命を守る・暮らしを守る」（6上折込）ほか *東日本大震災に関連する教材：「短歌や俳句を楽しもう」（5下付録）に復興への思いをよんだ児童作品を掲載している。「命を守る・暮らしを守る」（6上折込）では、阪神・淡路大震災に関連する図書もあわせて紹介している。 ○学習をおして郷土や地域を大切に思う気持ちや誇りをもてるように配慮している。「書くこと」の教材：全国各地の児童作文・詩を取り上げ、地域に根ざした特色ある視点を指導に位置づけられるように意図している。 ○「話すこと・聞くこと」の教材：地域の人たちに取材する教材「町の行事について調べよう」（3下）、「わが町ベスト・スリー」を決めよう」（5上） ○地域独特の文学作品の紹介 ……「楽しいお祭り・行事」（3下折込）、「伝えられてきた作品」（6上付録） ○「きつつき」（2下）、「いろいろな手紙を書こう」「見学したことを知らせよう」（3上）、「司書」（4上付録）、「伊能忠敬」（6下）、「翻訳家」（6下付録） ○「あかるい あいさつ」（1上）、「七草をおぼえよう」（2下）、「意見文を書こう」（6下） ○「君へ」「二十一世紀に生きる君たちへ」（6下）のほか、「自分を支える言葉」「子どもたちを救いたい——オードリー＝ヘプバーンの願い」（6下付録）を掲載している。 ○情報活用を重点的に学習する書くことの単元（情報活用単元）を設け、情報を収集し、選び、まとめる活動を取り上げている。 ○図書館利用や本の見方、新聞などの多様な情報の扱い方を取り上げ、調べ学習などの基礎的な知識の広がりを図っている。また、メディアリテラシーへの意識を促す教材（「言葉と事実」5上）も提示している。
●豊かな人間性と社会性	
●生命の尊重	
●環境教育・自然保護	
●国際協調や平和	
●豊かな情操	
●心の発達	
●安全・安心・防災	
●郷土や地域を愛する心	
●勤労の意義とものづくり	
●食育	
●先達の言葉や生き方にふれる	
●情報活用	
●「読むこと」読書関連単元	
②道徳への対応	○教育基本法や学校教育法への対応をふまえ、各領域・事項の教材で、生命・平和・友情・福祉・環境・公共・心の発達などにかかわる話題・題材を取り上げている。 ○話題・題材や言語活動など、多様な観点から、他教科の学習で活用できるように配慮している。 *社会科：「話すこと・聞くこと」話し合い・討論の系統・「書くこと」意見文の系統 *生活科・理科：「書くこと」の各単元（記録文・報告文） *理科および社会科・総合：説明的文章「はたらくじどう車」（1下）、「すみれとあり」（2上）、「くらしと絵文字」（3下）、「ウミガメの命をつなぐ」「便利」ということ」（4下）、「言葉と事実」（5上）、「世界遺産 白神山地からの提言」（5下）
③他教科との関連	
④幼稚園・保育所との連携	○入門期を中心に、幼稚園や保育所との連携を図り、学校生活に無理なく導入が図れるように、学習要素をスモールステップで提出したり、復習・振り返りの教材を設け、確実に習得できるように配慮している。 ○入門期の最初の教材は、児童の緊張した心をほぐすため、動物の親子が登場する優しい絵話を設定している。
⑤中学校との連携	○小学校で習得した事柄が中学校で無理なく活用できるように、着実に習得するための丁寧な説明や、振り返りのステップを明確に位置づけている。 ○中学校での活用の場面に備え、小学校で習得した事柄を児童自らが自覚するために、「この本で学ぶこと」で学習した事項と学習用語を提示し、「これから何を学ぶのか」「これまで何を学んだのか」をいつでも確認できるようにしている。 ○6年生で学んだ漢字が、中学校で着実に書けるようになるため、新出漢字を学ぶ段階でできるだけ習熟を図れるよう、領域の教材以外の場にも漢字指導のための教材（「漢字の広場」）を設けている。 ○中学校で学習する「小倉百人一首」や、古典作品や近代の著名な作品について、先人たちのもの見方や考え方を示し、中学校での古典学習へのハードルを下げている。 ○教育出版の『伝え合う言葉 中学国語』とは、学習のポイント「ここが大事」を共通化させ、読みのスキルや着眼点の積み上げができるように図られている。

2. 領域・事項などの内容と特色

(1) 入門期

●基礎・基本の徹底	○平仮名提出は7月まで、片仮名・漢字は9月以降とし、片仮名は平仮名と対応させながら、適宜平仮名の復習も行いながら、両者の確実な定着を図っている。
●伝え合う力の重視	○入門期は、楽しい言語活動をおして、もっとも基礎的な力を身につけていく時期として、特に、「あいさつの言葉」を大切に、日常的なコミュニケーションを円滑に図れるように配慮している。

<ul style="list-style-type: none"> ●内容・学習の展開 <ul style="list-style-type: none"> ●文字の学習 ●平仮名習得 ●片仮名習得 ●漢字学習の導入指導 ●書写指導との関連 ●話すこと・聞くこと ●書くこと ●読むことのステップ 	<ul style="list-style-type: none"> ●平仮名の読み・書きが系統的・段階的に学習できるよう、言語の事項を学習する教材を必ず領域の教材のあとに位置づけ、取り立て指導ができるようにしている。 ●清音（母音→子音）→濁音→撥音→半濁音→促音→拗音と段階をふんでいる。 ●片仮名の学習は、平仮名の要素を提出し終えてから教材化し、平仮名とまぎらわしいものは、注意を促すようにしている。 ●1上では、簡単な象形文字を5～6字と指示文字2字および漢数字を提示し、書く活動などをとおして定着を図っている。 ●書写（書き方）の学習との関連を意識した運筆や書字姿勢を提示し、弊社書写教科書と同じ書き文字を使用している。 ●あいさつから対話、常体・敬体表現の意識づけ、グループでの独話、クラスでの発表へと段階をつけ、話すことと聞くことの基礎が身につくようにしている。 ●主語・述語を意識した活動から助詞の「は」「を」「へ」を学び、さらに短文作りを経て絵日記指導へとスモールステップで、何度も振り返りながら、文章を書くステップをふんでいる。 ●文学的文章・説明文的文章とともに、段階をつけて導入を図っている。 ●読み聞かせから好きな本の紹介、学校図書館に親しむ教材を経て「大きなかぶ」「けんかした山」へと展開し、読書に親しむ態度を育てるように工夫している。
--	---

(2) 話すこと・聞くこと	
<p>目的意識、必然性・必要感と意欲を重視</p> <ul style="list-style-type: none"> ●目的に応じて活動を選ぶ視点を提示 <p>●学習の進め方を提示</p> <p>●聞き方も重点化</p> <p>●交流(学び合い)の重視自己評価・相互評価</p> <p>●系統・系列</p> <ul style="list-style-type: none"> ●日常化をはかる系列（4月 導入教材） ●スピーチ系列 ●話し合い系列 ●説明・報告系列 	<p>○日常生活や学校生活に関連した場を設定し、児童の実生活に結びついた活動となるよう工夫するとともに、目的意識や必然性・必要感と児童の意欲を重視した教材を設定している。</p> <p>○学習活動が、どのような特徴をもち、どのような場面で行くと効果的なのかを提示することで、目的に合った方法を身につけ、教科書以外の場面で活用できるように意識づけを図っている。また、適宜視聴覚機器も取り入れるようにしている。</p> <p>○学ぶ内容や展開が指導者にも学習者にも明確にわかるように構成している。</p> <p>○話し方だけでなく、聞き方を重点化した教材を設置し、各教材では、「ここが大事」で取り立て、意識できるようにしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●スピーチメモや練習の段階などで、児童どうしが感想を述べ合ったり、助言しあったりして、自らの発表内容を見直す視点を示したり、活動後に、感想を交流し、自己評価・相互評価する機会を設けたりしている。 ●上巻の最初の単元を「国語学習への導入教材」と位置づけ、独話や発表に慣れるための小教材を設定している。日常化を図り、モジュール化し帯単元としても、年間の学習に位置づけられるようにしている。 ●話題の選び方や話の構成の仕方のほか、言葉づかいの工夫や音声面での留意点を示している。 ●課題解決に向け、合意形成能力や人間関係形成能力を育て、課題に対する見方や考え方を深められるように意図している。 ●資料をもとに、説明・紹介・報告などの活動を効果的に行えるように意図している。また、それらの活動のよさや感想を交流し、次への展望をもつようにしている。

(3) 書くこと	
<p>目的意識、相手意識、意欲を重視した言語活動</p> <p>●系統・系列</p> <ul style="list-style-type: none"> ●日常化をはかる系列（4月 導入教材） ●課題追求、論理的に書く系列 ●自己を表現する系列 ●実用的な書くことの系列 ●創作活動の系列 ●他領域・他教科での扱い 	<p>○目的がはっきりした実用的な文章から、自分の心と向き合う自己を表現する文章までの多様な文種について、表現の全過程を見据え、教材の重点に応じて取り立て指導を位置づけて展開している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●各単元・教材において、目的意識、相手意識をふまえて、どのような手順で学ぶのか、学習の過程が指導者にも児童にも意識できるよう配慮した。 <ul style="list-style-type: none"> ●カード・メモの活用・ノート指導・日記などの短時間の活動（1回15分程度のモジュール）を日常的に帯単元的に行うように教材化している。（1年は下巻） ●経験を報告する文章や、対象を観察して記録・説明・紹介する文章、自己の意見を表現していく系列を、重点的に取り立てられるように位置づけている。 ●児童が自分を見つめ、自分の心と向き合うこと、自分の在り方や生き方を深く考える機会として、全学年自己表現の系列を設けている。 ●手紙や新聞、ポスター、パンフレットなどの各活動において話題・題材を幅広く選定し、さまざまな場面で活用できるようにしている。 ●創作文と児童詩の系統を、全学年で位置づけている。発達段階をふまえて、文学的な深みのある表現に達するように内容を精選化し、題材や構成を工夫している。 ○他の領域・事項でも多様な書く活動を取り入れており、より多様な表現活動が体験できるように意図している。

(4) 読むこと	
<p>①文学的文章</p> <ul style="list-style-type: none"> ●目的に応じた「読み」の力の育成 <p>全学年・全巻をとおして読書につなげる</p> <ul style="list-style-type: none"> ●系統・系列、作品 ●声に出して言葉と出会う（上巻 鑑賞詩） ●命・平和について考える ●言葉の楽しさ・美しさを読み味わう(下巻 鑑賞詩) ●友情・協力 ●民話・昔話 ●言語文化（伝統芸能） ●自己実現・自己の成長 ●文語詩 ●脚本 ●伝記 ●ファンタジー ●随筆 <p>②説明的文章</p> <ul style="list-style-type: none"> ●目的に応じた読みの観点を意識した学習展開 ●系統・系列、教材 <ul style="list-style-type: none"> ●正確に読む系統（上巻） ●論理を考える系統（下巻） ●情報を生かす系統（下巻） 	<p>○作品の特徴を効果的に引き出し、他の単元でも活用できる言語活動を単元を貫いて設定するとともに、単元の学習の目的に応じた読みの違いを意識づけ、読みの観点やノートのまとめ方などの学習スキルを系統的に提示している。</p> <p>○各教材や読書単元および各巻の付録（折込）に図書紹介のページを設け、多様なテーマの図書を紹介している。（各学年平均約80冊を紹介）</p> <p>○子供が主体的に作品にかかりながら、新たな言葉の世界と出会い、読む楽しさを味わうことができるようにしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「あいうえおの うた」（1上）、「わらべうた」（2上）、「かえるのびょん」（3上）、「春のうた」（4上）、「水平線」（5上）、「風景 純銀もざいく」「紙風船」（6上） ●「てんとむし」（2下）、「わすれられないおくりもの」（3上）、「一つの花」（4上）、「大造じいさんとがん」（5上）、「川とノリオ」（6上）、「イナゴ」「君へ」（6上） ●「いろんなおとのあめ」（1下）、「せかいじゅうの海が」（2下）、「おおきな木」「とびばこだんだん」（4下）、「雪」（5下）、「イナゴ」（6下） ●「お手がみ」（1下）、「ないた赤おに」「アレクサンダとぜんまいねずみ」（2下） ●「わらべうた」（2上）、「かさこじぞう」（2下） ●「ぞろぞろ」（落語 4上）、「附子」（狂言 5下） ●「モチモチの木」（3下）、「いつか、大切なところ」（5上）、「ぼくの世界、君の世界」「伊能忠敬」（6下）、「自分を支える言葉」（6下付録） ●「素朴な琴」「鳴く虫」「はたはたのうた」「雪」（5下） ●「木竜うるし」（人形劇 4下）、「附子」（狂言 5下付録） ●「みすゝさがしの旅」（5下）、「伊能忠敬」（6下）、「子どもたちを救いたい——オードリ＝ヘブパーンの願い」（6下付録） ●「白い花びら」（3上）、「雪わたり」（5下）、「きつねの窓」（6下） ●「薫風」「迷うじ」（6上） <p>○展開の仕方を単純なものから複雑・高度なものへと、段階的にふれられるように配慮している。これらを、自然現象や動植物への理解をうながす教材、論理的思考力を育てる教材など、学年にふさわしい話題・題材とともに、系統化を図っている。</p> <p>○目的に応じた読みの観点を系統的に配し、読みのスキルアップを図っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●正確に読み取り、とらえた情報を選択・吟味し、発信するように設定している。情報活用の教材と関連させても展開できる教材 <ul style="list-style-type: none"> * 2下「すみれとあり」+ <図書館へ行こう>図書館で本をさがそう * 3上「めだか」+ <図書館へ行こう>本で調べよう ほか ●文章の内容を理解し、構成に着目しながら論旨を読むことを重点的に行うように意図している。 <ul style="list-style-type: none"> ●「書くこと」の教材と関連させた教材 <ul style="list-style-type: none"> * 1下「はたらくじどう車」+「のりもののことをしらせよう」 ほか ●「書くこと」の教材と関連させても展開できる教材 <ul style="list-style-type: none"> * 2下「さけが大きくなるまで」+「生きもののことをせつめいしよう」 ほか ●文章の記述の仕方から、筆者の考えを読み取っていくことを主眼としている。 ●「話すこと・聞くこと」の教材と関連させた教材 <ul style="list-style-type: none"> * 2下「きつつき」+「おもちゃ大会」をひらこう」 ほか

<ul style="list-style-type: none"> ●話題と学年の系統 <p>③読書に親しむ系統の教材</p> <ul style="list-style-type: none"> ●系統・系列 <ul style="list-style-type: none"> ●上巻（5月） ●下巻（11～12月） ●巻末折込の図書紹介 ●巻末折り込み ●本を読もう（「てびき」） 	<ul style="list-style-type: none"> ●身近な自然やできごと・身のまわりや生活に目を向ける ●人間も含めた、自然界の営み ●自然と人間、人間と人間のかかわりを考える <p>○上巻と下巻にそれぞれ読書関連単元を設け、読み物教材と読書関連活動を組み合わせている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●情報検索・情報活用を中心とした読書単元（2年～5年）。 ●読書体験の交流と、表現活動を中心とした読書単元。 ●各巻巻末の折込付録には、学年の発達段階に応じてテーマごとに多様な図書が紹介され、児童の興味・関心・意欲を引き出す内容となっている。 ●外面は学年に応じてテーマを設け、内面はさまざまなジャンルや内容の本を紹介。 ●「てびき」には、必ず「本を読もう」を設置し、同一作者の別の作品や関連する話題・内容の本などを取り上げて紹介し、読書に広げる機会を設けている。
--	---

(5) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	
<p>①伝統的な言語文化に関する事項</p> <p>●内容・系統</p> <ul style="list-style-type: none"> ●1・2年 ●3・4年 ●5・6年 <p>②言葉の特徴やきまりに関する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ●系統的な配置 ●脚注や「てびき」、付録などで語彙指導 ●「言葉単元」の設置 ●学習事項と学習用語の系統化 <p>③漢字</p>	<p>○昔話・神話から近代文学までの、必ずふれておきたいスタンダードな作品を取り上げ、学習指導要領の系統に沿った配置をしている。</p> <p>○音読・暗唱に適した古文・漢文から、四季折々の美しい言葉を味わう小教材や、昔から親しまれてきた言葉遊びなどの小教材を位置づけ、日本語のリズムや響きを味わえるようにしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○*昔話や民話、神話（読み聞かせ・劇化して楽しむ） <ul style="list-style-type: none"> *言葉遊び・いろはうた *短歌・俳句・ことわざ・慣用句・故事成語 *季節の言葉・季語 *古文・漢文 *四季の言葉・言葉遊び *伝統芸能・短歌・俳句 ○日常の言語生活から題材を取り上げ、活動をとおして言語的な知識についての理解をうながし、ふたたび児童自らの言語生活に還元できるように配慮している。 <ul style="list-style-type: none"> ●「言葉の働きや特徴」「表記」「語句」「文および文章の構成」「言葉遣い」「表現の工夫の系統」の6系統に基づき、児童の興味に即して展開している。 ●読むことの脚注や「てびき」の中の言語専用のコーナー「言葉」では、文脈の中での特徴的な語句の使い方を取り上げ、自らの表現活動に活用できるように配慮している。各巻付録「言葉の木」「言葉の星座」では、語彙拡充として、連想しながら言葉をふやしていく教材を配置している。 ●言語についての興味・関心を高め、言語のはたらきについて、児童が活動をとおして実感的に考える単元を設定している。 ●学習用語は系統化を図って配置している（全学年とおして約150語抽出）。巻末「この本で学ぶこと」のページで、適宜学習事項（学習指導要領の指導事項に対応）と学習用語を抜き出し、簡潔にまとめている。 ○系統的・重層的に繰り返し学習ができるように、漢字を専門に学習する教材「漢字の広場」を学年に6～7か所設け、確実な習熟を図っている。

(6) 付 録	
<p>①各巻巻末付録教材の構成と内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ●個に応じた指導、家庭学習の場にも対応 ●系統・系列 	<p>○国語学習にかかわるさまざまな指導事項や言語活動を幅広く取り上げている。※折込図書紹介については、「読むこと」の巻末折込の項参照。</p> <p>○単元教材や小教材の学習を深めたり、個に応じた学習や家庭学習で、また、他教科で言語活動を取り上げる際の参考や支援となるように意図している。</p> <p>○付録として掲載する要素を精選化して掲載している。</p>

3. その他の学習・指導への配慮	
(1) 文字・表記・図版	
<p>①文字、活字、書体(書写との関連)</p> <p>②表記</p> <ul style="list-style-type: none"> ●分かち書き ●文節での改行 ●交ぜ書きの回避 ●漢字学習 ●「前の巻までに学んだ漢字」 <p>③挿絵・図版・写真</p>	<p>○活字は文字としての美しさを考慮しながら、読みやすく、力強い教科書体を用いている。また、巻末の漢字一覧で掲出している硬筆体は、書写教科書の筆者の字を使用し、学習上の関連を図っている。</p> <p>○表記・表現については、全学年にわたって統一し、正しい表記の仕方・用法が身につくように学年の発達段階を考慮して提示している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●2年生の上巻（夏休み前までの学習時期にあたる教材）までは、児童が読む際の負担感を除くために、分かち書きで表記している。 ●1年生までは、支援が必要な児童が読む際の負担感を除くために、文節単位で改行し、文脈の中での意味のまとまりが理解しやすいように配慮している。 ●上位学年の漢字であっても、熟語の形で提出したほうが定着しやすいため、過度な負担感をいടかないよう注意しながら、適宜ルビを使用し、違和感のある交ぜ書きをできるだけ避けるように配慮している。 ●新出漢字・前学年漢字ともに巻末「漢字を学ぼう」にまとめて一覧できるようにし、すべて硬筆の模範書体を示すようにして、児童が教科書体活字と硬筆書体との微妙な差異に迷うことがないように配慮した。 ●前の巻までに学んだ漢字も、読み方を示し、家庭学習などでも児童が自ら学べるように配慮している。 ●音素索引配列を行い、まだ学んでない音に配列される漢字については、既習音調で配列し、そこから参照ページへと導いて、児童が自ら学べるように配慮している。 <p>○挿絵・図版・写真は、児童の学習意欲を高めるもの、文章の理解を助ける資料性の高いものや、児童の想像を膨らませるイメージ豊かなもの、活動の手順や留意点をわかりやすく示すものなど、学習上必要なものを十分に取り上げている。</p>

(2) 造本・装丁	
<p>①造本・印刷・堅牢性・耐久性</p> <ul style="list-style-type: none"> ●表紙・用紙・印刷 ●上・下巻の分冊による構成 ●製本 ●表紙・デザイン <ul style="list-style-type: none"> ●表紙絵 ●紙面デザイン ●カラーユニバーサルデザイン ●特別支援教育への配慮 	<p>○表紙は堅牢で環境に配慮した特殊コーティングを採用、紙は再生紙、印刷は植物を原料とした植物油インクを使用している。</p> <p>○印刷には、環境に配慮したバイオマスで発電されたグリーン電力を使用し、鮮明で読みやすい仕上がりがとなっている。</p> <p>○児童が持ったときの重さに配慮すると同時に、学習意欲の面で一年に二回、新しい教科書と出会う期待と喜びを大切に考え、上・下巻の分冊にしている。</p> <p>○特に高学年は、文章量が増える一方、学習事項が高度化・複雑化していくため、十分な紙面を使ってわかりやすい丁寧な展開をしている。</p> <p>○製本は、くるみ・平綴じで、長期間の使用に耐える堅牢な方式を採用している。</p> <p>○どの絵も物語を感じさせ、児童の自然な発話を促すように意図されている。多様な色づかいはカラーユニバーサルにも配慮した明るく感性豊かな世界を表現している。</p> <p>○読みやすさを配慮した字詰め・行数を採用し、学習の支障となるような過度な色づかいを避け、読みやすく落ち着いたデザインに配慮している。イラストと文字の空きも十分とり、識別しやすいように配慮している。</p> <p>○色調のバランスだけでなく形の上でも区別しやすいように配慮したり、色による指示を含んだ設問や色に基づく活動を避け、児童の負担感をなくす工夫をしている。</p> <p>○イラストや図版は、内容が区別できるような色づかいと色彩のバランスに配慮している。</p> <p>○メモやカード、ノートなど学習の中で児童が自分で記入する制作物は、統一的に淡い黄土色を付け、教科書上ですぐに記入例として識別できるようにしている。</p> <p>○1年生は、児童が読む際の負担を除くために、単語や文節の途中での改行を避け、意味のまとまりが理解しやすいように配慮している。</p> <p>○「話すこと・聞くこと」「書くこと」の単元では、学びのステップを常に確認できるように、「学習の進め方」の欄を設け、児童が学習の見通しと、本時で何を学習するかがわかるように配慮している。</p> <p>○学習の展開、学習の留意点、メモやカード、ノートなどの制作物の例示は、領域を超えて統一デザインとし、学び方が定着できるように配慮している。</p>